

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400564		
法人名	有限会社 サンシャイン		
事業所名	グループホームすずらん(幸せの再来) 1階		
所在地	岐阜県羽島市正木町不破一色305番地		
自己評価作成日	令和 5 年 8 月 1 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 1 月 18 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgvsvoCd=2170400564-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和 5 年 9 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年に引き続き「利用者様の出来ること」を取り上げてしまわない様な関わりを目指しています。家事作業中、「自身で考え判断し、他者を助けることが出来る」や今まで職員が行っていた「入浴後、髪をドライヤーで乾かすことが出来る」など、「出来る事見つけ」を職員と一緒に積み重ねていくことにより、利用者様は、自信と役割を感じて頂いているのではないのでしょうか。食事後の台所の片付けなども手際良くこなしてみえます。今年に入り、職員不足の為、利用者様と思うように関わることが難しい場面も出てきています。どうしたら利用者様の何気ない言葉や行動から、その方の思いを見逃さずことなく受け取り、寄り添うことが出来るのかを、どの職員も真剣に考えています。その信念を私達の中心に置き、業務改善を繰り返しています。職員不足や認知症状の進行など困難な中にも、利用者様や側に居る私達職員皆が、不安なく、笑顔で、大きく深呼吸が出来様な場所になる様、力を合わせています。

ホームは、明るく開放的な和テイストの設えであり、落ち着いたある雰囲気を感じ取れる。日々のケアの中で、「笑顔」を実践のキーワードに掲げており、利用者が笑顔でいられることを大切にして、利用者の生活環境の向上に取り組むとともに、利用者のできることを引き出す観点から、利用者それぞれが役割を持ち、生活が送れるように支援している。一方、職員に対しても、メンター制度を導入し、指導、相談体制を強化するとともに、職場改善を通して働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。利用者職員がケアするケアされるという立場を超えて、「生活をともにする」というスタンスで接し、利用者の主体的な生活を支援するとともに、活性化に注力している。また、普段から職員同士が相手の表情や態度を見て、相手の事を思いながら注意し合う事で不適切ケアの予防に努めている。さらに、各居室に見守り機器と記録システムを導入する等、ICT化を推進し、利用者の事故防止と介護者の負担軽減を図っている。各フロアには、面会室を設置し、家族とゆっくり過ごせる場所を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私達ホーム職員が理念に添った介護サービスを提供することにより、利用者様、ご家族、地域の皆様に、どの様な安心感を感じて頂けるか、職員会議、リーダー会議や毎日の申し送り時などで、事例紹介を行い、各職員に意識付を行っている。より良いサービス向上へ繋げている。	入職時に、理念について研修を行い、職員の意識化を図っている。誰に対しても「笑顔」を大切にしたい支援に取り組むとともに、利用者のできることに焦点をあて、潜在能力を引き出し、生活を主体的に送れるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染防止に配慮しつつ、地域医療機関へご家族と定期通院頂いたり、担当の民生委員様に面会頂いたりしている。日々の散歩でご近所との繋がりが途切れないように心がけている。5月以降もボランティア様の受け入れはまだ行ってない。	天候や利用者の体調等を見ながら、散歩や畑に収穫に出かける等して、地域住民と顔馴染みの関係になっている。今年度はオンライン地域交流会を開催し、ユーチューブでホームの説明や介護職員へのインタビュー、介護予防等の配信を行ったとのことである。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年の5月より新型コロナウイルスが5類に変更されたことにより、運営推進会議の開催をホームで行うことに変更した。	地域包括支援センター職員や民生委員、家族等が参加し、対面での開催を行った。経験の浅い職員も参加して、実際に外部の方の意見を直接聞いたり、自分の意見を伝えることで、自信につながる良い機会にもなったとの事で、サービス向上に加えて、職員の質の向上にもつながったとのことである。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	通常の連絡はメール連絡頂いている。何かあれば、気軽に窓口へ相談に行くことが出来ている。協力体制にある。	運営推進会議に参加してもらったり、日常的に連絡を取り、わからないことがあれば相談し、助言を得ている。また、運営及び利用者状況、空室情報等は定期的に報告する等して、連携関係ができています。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様が怒りながら外へ出ていかれ止める事が出来ない事例があった。一時、フロアや玄関の施錠を希望する声が高まった。鍵をつけることが、利用者様の閉塞感を強めるとともに、ご家族や地域の方が入りづらさを感じる一因になることを改めて考える機会となった。	介護側の視点でのリスクだけに目を向けず、地域包括支援センターに「身体拘束にあたるか否か」について相談しながら、多方面からの視点について職員間でも検討し、自分たちのケアを振り返ることができている。現在、夜間は防犯の観点から施錠を行っているが、日中は、玄関に施錠していない。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の講師を招いての定期研修でも虐待防止について取り上げている。外部研修へも職員を参加させ知識を深めている。	接遇や不適切ケア等、テーマを変えて定期的に研修を行っている。また、アンガーマネジメントについてホーム内で話し合い、勤務中にイライラした表情や態度が感じられる職員がいた際に、「ハート」の書いたカードを作成し、さりげなく、注意し合うよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村と相談し、安心してホームで生活頂ける様、身元保証の契約を結んで頂いた。玄関先に支援の為のパンフレットを置いている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約内容に変更がある場合、個々に丁寧に説明する機会を設けている。サービス計画書説明時や体調変化がみられる場合も個別に不安や疑問点について伺い、ご利用者が安心してホームで生活出来る様に働きかけている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の相談機関のご紹介を契約時に行っている。日々のケアの中で、どの様なご要望があった場合でも、一度前向きに検討している。ご家族宛てのアンケートにて、聞き取りを行っている。	利用者家族の面会時等の声かけに心がけ、日頃から意見聴取に努めている。また、独自のアンケートを実施し、意向を把握している。意見を伺った際は、自分たちは何をどこまで応えられるのか職員会議等で話し合い、利用者家族の気持ちに寄り添えるよう取り組んでいる。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、管理者、施設長、フロアーリーダーで話し合う機会を設け、自由な意見交換が出来ている。各職員に対しても年1回管理者との面談と、加えて、契約更新時にその時間を設けている。	管理者は現場に身を置き、日常的な業務の中で職員の体調や人間関係、家庭のこと等の相談を受けている。また、定期及び随時に面談を行うとともに、毎月の全体会議やフロア会議、リーダー会議を開催し、職員の意見をくみ上げる環境を整えている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	個々のライフワークに合わせた働き方を職員と取り決めている。半年に1回、自己評価、上司評価を行い、その後、面談へと繋げている。資格取得の支援を行い、向上心を持って働ける様、支援を行っている。	「ぎふ・いきいき介護事業者」の認定を受けており、ワーク・ライフ・バランスに配慮した勤務体制づくりに取り組むとともに、介護ロボットや記録システムを導入し、職場環境改善に向けた取り組みを行っている。また、職員が働きながら、介護資格を取得できるよう支援している。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	有資格者からの指導を受ける機会を設けたり、メンター制度を導入している。その他、外部講師を招いての研修を行っている。初任者研修等、事業所外の研修を受ける機会作りも勧めている。	新入職員には、管理者やリーダー等がメンターとなり、新入職員の指導教育や相談にあたっている。また、外部研修への参加や外部講師を招いた研修等、各種の内部研修を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症予防の為、他事業所等との交流がなかなか持てていないままでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの生活の主体は利用者であることを忘れないような関わりが持てる様に努めている。意思決定支援について学び実践に繋げている。介助前にも、ご本人に伺い意向確認後に支援方法を決定している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者様とよく会話し思いを聞き取り支援に繋げている。その方に何が必要かを検討している。起床時間や朝食の時間、洗濯物の取り扱い、入浴などについても心身の状態に合わせ、個別の対応を行っている。	日常的なケアの中で、声かけする等して、利用者の意向把握に努めている。困難な場合は、ノンバーバルコミュニケーションを通して、しぐさや言動から意向把握に努めている。また、申し送り等を通じて職員間で情報を共有し、支援に活かしている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態の変化に気を付けるように、ご本人の普段の言葉や行動に関心を持ち関わっている。それらの情報を元に、ご家族や主治医と意見交換し、介護計画を作成している。	介護計画は、利用者・家族の意向を踏まえ、主治医に意見を聞き、職員会議を通じて、利用者の「できること」に焦点を当てて、日々の生活の様子を振り返り、チームで介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い、計画を見直している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン内容、実践状況などが職員間で共有しやすくなっている。健康状態についても直近2週間のチャートを利用し、個別に把握出来るようになってきている。	タブレットを活用した記録システムを導入し、適時に記録している。時系列に記録するため、支援経過がもれなく記録されている。バイタルサイン等の記録がグラフ化され、データに反映されているので、職員間での共有が進み、医療連携にも役立っている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の外出や、連携医療機関以外の病院受診を希望される場合など、家族関係、家族の生活状況に応じ、外出時の同行や送迎などホームで対応させて頂いている。	病院受診については、家族に同行をお願いしているが、家族の状況により、ホームで対応している。また、コロナ禍の状況を見ながら、家族と自宅外泊や外出(夕食)を実施している。ターミナル期の方について、状況に応じた寄り添い支援を行う等、柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、地域へ出ることも、ホームへ来て頂くことも、徐々に変更を行っている。今年10月より介護支援相談員様の受け入れを予定している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望される医療機関の確認を行い、主治医と連携を取らせて頂いている。必要があれば、ご家族も同行頂き、直接主治医から話を聞いて頂いている。専門医受診が必要な場合は必ずご家族に相談させて頂いている。お看取りの場合も主治医からの十分な支援があり安心頂いている。	利用者、家族はかかりつけ医の選択について、利用前の主治医か協力医療機関のいずれも選択が可能である。協力医とは、看護師を中心に定期的な往診や緊急時の対応等、密な連携ができています。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	認知症の方が入院された場合のリスクを常に考え、家族や主治医、病院相談員と情報交換を行っている。入院時は必ず同行し、医療機関への情報提供を行っている。何かあれば、病院関係者や家族と相談させて頂いている。急な退院にも対応している。	入院中は、適宜、医療相談員に電話する等して治療状況や状態等を聞き取るとともに、環境変化により、認知症状が増悪しないようにケア方法を情報提供している。退院時は心身・認知機能の低下を防ぐため、早期に心身状況を把握し、退院調整をして受け入れている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針について「重度化した場合と看取りの指針」を配布し説明を行っている。ご本人、家族の状況に配慮しつつ看取りを行っていくうえで、どの様に関係者が協力体制をとっていくか、その都度相談させて頂いている。ご家族の意向に添うよう努力している。	利用時に看取り指針を説明し、利用者・家族の意向を確認している。状態が変化した時は、直接主治医から説明を受け、ホームでできるケア体制を整えている。看取りに際しては、家族の意向を踏まえ、穏やかに過ごせるよう、利用者に寄り添う支援に努めている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。急変時にはバイタルチェックを必ず行い、看護師、施設長に報告を入れる事を普段から徹底している。利用者様の個別の病状について把握出来る様、個別のファイルを作成している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、避難方法や搬送方法を学んでいる。各フロアには停電時に備え、懐中電灯を用意している。水害災害時の垂直避難訓練を実施。	年2回、利用者も参加する避難訓練を行っている。また、一斉SNSで緊急時出勤の有無の確認する訓練を毎年行っており、災害時の備えもできている。簡易版BCP(事業継続計画)が事務所に掲示しており、職員間で共有されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の心を傷つけてしまわないような声掛けの仕方、感謝の言葉の大切さについて、繰り返し話し合いを行い、良い結果に繋がっている。認知症研修においても接遇・マナーの研修を行った。	利用者の人格を尊重する観点から、日々、利用者様に誠実で丁寧なケアに努めている。職員同士で表情や態度、かかわり方について不適切と感じた時は、「ハートカード」を見せる等、注意される相手が不快にならず、また、注意しやすい関係性の構築に努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言葉や手振り、身振り、表情に何の意味があるのかや思いを常に考え関わっている。何か行う時には必ず利用者様に何うようにしている。発言しやすい雰囲気作りが大切だと感じ、笑顔を中心掛け、実践に繋げる努力をしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかなホームでの日課は決まっているが、ご本人の希望や体調により個々に過ごし方を変えています。自発的に行って頂いている事を大切に継続出来る様支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューや下ごしらえ、調理などケアプランに入れ、手伝って頂いている。食器洗いや食事前後のテーブル拭きの担当の方がある。	それぞれのユニットで、利用者の希望も取り入れながら、収穫野菜を利用した献立を作成している。また、四季折々の行事食を提供したり、利用者とともに好み焼きや干し柿づくり、苺ジャムづくりを行う等、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分不足な方にはゼリーやその方の好みの合った物を提供し、摂取頂いている。ご家族からの差し入れもお願いし、飲んだり食べたりが出来る様工夫している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行っている。舌ブラシや洗口剤を個別で使用頂いている。必要に応じ歯科受診や往診の支援を行っている。	歯科治療については、家族同行による従前の歯科医院へ通院したり、訪問歯科診療を利用したりしている。利用者の症状に関して歯科医師との連携関係も密であり、利用者の症状も考慮しながら、治療してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	認知症状の為に、排泄の感覚やトイレお使用方法が分からず、不安になってみえる利用者様に毎日、根気よく声掛けを行い、徐々に便器にも座ることが出来る様になられている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日やおむねの時間帯は決まっているが、その日の体調や気分が入浴日や時間を変更。入浴剤を使用し、気分良く入って頂ける様、支援している。毎日、声掛けをさせて頂いている方もある。入浴拒否の方には、清拭を取り入れたり、入浴日以外で足浴を行ったりして、徐々に慣れて頂いている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や、夜の入床時間など個々に対応させて頂いている。不安な時は、話を傾聴し落ち着いて眠って頂ける様な関りをさせて頂いている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	把握しており、症状の変化に注意している。薬の変更について随時、看護師から申し送りがあり、利用者様に変化が見られれば、看護師に申し送っている。ご家族の心配事なども伺い主治医に伝えている。かかりつけ薬剤師との連携もを行い、体調変化に対応。	利用者の体調変化や皮膚状態等、心身の変化を観察し、申し送りをして管理者に報告し、早期発見・早期支援に努めている。誤薬予防として薬剤師に相談し、服薬管理に関する提案を受ける等、連携関係ができています。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が出来る事、好きな事を見つけ、散歩、レクリエーション、月の行事、家事作業など楽しみの支援を行っている。	洗濯物を庭で干して取り込んだり、たたんだりすることや、食事時のお米を研いでもらったり、調理、後片付けに勤しむ等、日常生活の中での役割分担の工夫をしながら、利用者の得意なことで力を発揮してもらっている。利用者の「できること、できたこと」を記録し、職員同士で情報を共有し、生き生きと生活していただけるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人やご家族が希望される医療機関への通院、おやつや買い物、散歩、花見など、コロナ禍であっても、外へ出かける機会を増やす努力をしている。	天候の良い日には、近隣の散歩をしたり、コロナ感染症対策を行い、花見や公園、買い物に出かけている。また、ホームの農園に行き、さつま芋掘りや苺を採取したり、また、家族との外出や散歩等を行っている。	今後のコロナ感染症の動向を見ながら、例えば、利用者の行きたい先を聞き取り、ともに計画を考え、外出行事を企画し、実施する等、さらなる外出機会の創出に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持ちたいと希望される方があり、安心感を感じて過ごして頂く為に、そういった場合はご家族と金額を相談し、もって頂く様支援を行っている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、利用者様やご家族の希望があれば、ホームの電話を利用して頂いている。手紙などもお渡ししている。携帯電話のライン機能を利用し、画像の送信やビデオ通話にてコミュニケーションを取って頂いている方もある。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内を清潔に保ち、不快感を感じ無い様に配慮している。玄関やフローア、洗面所に季節の花を飾るなどし、ゆったりと落ち着いた雰囲気でも過ごして頂ける様、工夫している。作品作りなども利用者様に楽しみながら行って頂けるよう工夫している。	玄関先にソファがあり、落ち着いて過ごせるスペースがある。リビングや廊下には絨毯マットが敷かれており、転倒時の怪我防止の工夫がされている。また、リビングや玄関、廊下の各所に利用者の作品や手作りカレンダーが展示されており、季節感がある空間づくりとなっている。明るく、家庭的で温かみある雰囲気が感じられる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキ、玄関に配置された椅子に座って頂ける様、個別に過ごして頂く場所があり、利用者様自身の能力で上手に使い分けてみえる。利用者様によっては事務所に話しに来られる方もある。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の作品や写真で室内を飾ったり、清潔感や安全面にも配慮している。ご自宅から思い出の物を持ち込んで頂いている方もある。TV番組表を掲示し、楽しみにされている事への支援も行っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手すりの設置もされている。ウッドデッキへ洗濯物を干しに行ったり、取り込んだりして頂くことが出来る様に工夫している。玄関の花の水やりも積極的に行って下さっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400564		
法人名	有限会社 サンシャイン		
事業所名	グループホームすずらん(幸せの再来) 2階		
所在地	岐阜県羽島市正木町不破一色305番地		
自己評価作成日	令和 5 年 8 月 1 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 1 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年々、重度化が進む中でも、ご本人が出来ることを取り上げてしまわない様に利用者様の生活の仕方や職員の関わり方を工夫している。洗濯物を干したり、たたんだり、台所の洗い物、食器拭きなど、利用者様一人では出来ないことも、職員と一緒にすることにより、出来ることへと繋げている。自己の能力を低下させないような取り組みを行っている。寝たきりの方でも訪室時に必ず、声掛けを行っている。コミュニケーションを取ることを大切にすることにより馴染みの職員がいつも側にいてくれるという安心感を感じて頂いているのではないかと。結果、笑顔を引き出すことが出来ている。体調が安定しない方もある為、利用者様の体調の変化を敏感に察知し、体調が急変した場合も、職員同士が声を掛け合い、連携することが出来ている。どの状態の利用者様にも安心して過ごして頂ける場所になる様、努力している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JkyvosvCd=2170400564-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和 5 年 9 月 20 日

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私達ホーム職員が理念に添った介護サービスを提供することにより、利用者様、ご家族、地域の皆様に、どの様な安心感を感じて頂けるか、職員会議、リーダー会議や毎日の申し送り時などで、事例紹介を行い、各職員に意識付を行っている。より良いサービス向上へ繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染防止に配慮しつつ、地域医療機関へご家族と定期通院頂いたり、担当の民生委員様に面会頂いたりしている。日々の散歩でご近所との繋がりが途切れないように心がけている。5月以降もボランティア様の受け入れはまだ行ってない。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年の5月より新型コロナウイルスが5類に変更されたことにより、運営推進会議の開催をホームで行うことに変更した。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	通常の連絡はメール連絡頂いている。何かあれば、気軽に窓口へ相談に行くことが出来ている。協力体制にある。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様が怒りながら外へ出ていかれ止める事が出来ない事例があった。一時、フロアや玄関の施錠を希望する声が高まった。鍵をつけることが、利用者様の閉塞感を強めるとともに、ご家族や地域の方が入りずらさを感じる一因になることを改めて考える機会となった。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の講師を招いての定期研修でも虐待防止について取り上げている。外部研修へも職員を参加させ知識を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村と相談し、安心してホームで生活頂ける様、身元保証の契約を結んで頂いた。玄関先に支援の為のパンフレットを置いている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約内容に変更がある場合、個々に丁寧に説明する機会を設けている。サービス計画書説明時や体調変化がみられる場合も個別に不安や疑問点について伺い、ご利用者が安心してホームで生活出来る様に働きかけている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の相談機関のご紹介を契約時に行っている。日々のケアの中で、どの様なご要望があった場合でも、一度前向きに検討している。ご家族宛てのアンケートにて、聞き取りを行っている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、管理者、施設長、フロアーリーダーで話し合う機会を設け、自由な意見交換が出来ている。各職員に対しても年1回管理者との面談と、加えて、契約更新時にその時間を設けている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	個々のライフワークに合わせた働き方を職員と取り決めている。半年に1回、自己評価、上司評価を行い、その後、面談へと繋げている。資格取得の支援を行い、向上心を持って働ける様、支援を行っている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	有資格者からの指導を受ける機会を設けたり、メンター制度を導入している。その他、外部講師を招いての研修を行っている。初任者研修等、事業所外の研修を受ける機会作りも勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症予防の為、他事業所等との交流がなかなか持ていないままである。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの生活の主体は利用者であることを忘れないような関わりが持てる様に努めている。意思決定支援について学び実践に繋げている。介助前にも、ご本人に伺い意向確認後に支援方法を決定している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者様とよく会話し思いを聞き取り支援に繋げている。その方に何が必要かを検討している。起床時間や朝食の時間、洗濯物の取り扱い、入浴などについても心身の状態に合わせ、個別の対応を行っている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態の変化に気を付けるように、ご本人の普段の言葉や行動に感心を持ち関わっている。それらの情報を元に、ご家族や主治医と意見交換し、介護計画を作成している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン内容、実践状況などが職員間で共有しやすくなっている。健康状態についても直近2週間のチャートを利用し、個別に把握出来るようになっている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人が行きたい場所へ行くことが出来る様、その日に向けて体調を整えたり、ご家族とどの様に行って頂くかなど、相談を繰り返して行い、実現に向け支援させて頂いている。困難だと思われる場合も本人本位に検討を繰り返すことを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、地域へ出ることも、ホームへ来て頂くことも、徐々に変更を行っている。今年10月より介護支援相談員様の受け入れを予定している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望される医療機関の確認を行い、主治医と連携を取らせて頂いている。必要があれば、ご家族も同行頂き、直接主治医から話を聞いて頂いている。専門医受診が必要な場合は必ずご家族に相談させて頂いている。お看取りの場合も主治医からの十分な支援があり安心頂いている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	認知症の方が入院された場合のリスクを常に考え、家族や主治医、病院相談員と情報交換を行っている。入院時は必ず同行し、医療機関への情報提供を行っている。何かあれば、病院関係者や家族と相談させて頂いている。急な退院にも対応している。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針について「重度化した場合と看取りの指針」を配布し説明を行っている。ご本人、家族の状況に配慮しつつ看取りを行っていくうえで、どの様に関係者が協力体制をとっていくか、その都度相談させて頂いている。ご家族の意向に添うよう努力している。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。急変時にはバイタルチェックを必ず行い、看護師、施設長に報告を入れる事を普段から徹底している。利用者様の個別の病状について把握出来る様、個別のファイルを作成している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、避難方法や搬送方法を学んでいる。各フロアには停電時に備え、懐中電灯を用意している。水害災害時の垂直避難訓練を実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れ合いから、不快感を与えてしまうような声掛けが時々出てしまっている。利用者様の心を傷つけてしまわないような声掛けの仕方、感謝の言葉の大切さについて、繰り返し話し合いを行っている。認知症研修においても接遇・マナーの研修を行った。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言葉や手振り、身振り、表情に何の意味があるのかや思いを常に考え関わっている。何か行う時には必ず利用者様に何うようにしている。発言しやすい雰囲気作りが大切だと感じ、笑顔を中心掛け、実践に繋げる努力をしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかなホームでの日課は決まっているが、ご本人の希望や体調により個々に過ごし方を変えています。自発的に行って頂いている事を大切に継続出来る様支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューや下ごしらえ、調理などケアプランに入れ、手伝って頂いている。食器洗いや食事前後のテーブル拭きの担当の方がある。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分不足な方にはゼリーやその方の好みの合った物を提供し、摂取頂いている。ご家族からの差し入れもお願いし、飲んだり食べたりが出来る様工夫している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行っている。舌ブラシや洗口剤を個別で使用頂いている。必要に応じ歯科受診や往診の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限り、オムツに頼ることがない様に、日中はトイレ誘導を繰り返す努力をしている。ご本人の力に合わせて、夜間はベット再度にポータブルトイレを設置し利用を促している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日やおむねの時間帯は決まっているが、その日の体調や気分が入浴日や時間を変更。入浴剤を使用し、気分良く入って頂ける様、支援している。毎日、声掛けをさせて頂いている方もある。入浴拒否の方には、清拭を取り入れたり、入浴日以外で足浴を行ったりして、徐々に慣れて頂いている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や、夜の入床時間など個々に対応させて頂いている。不安な時は、話を傾聴し落ち着いて眠って頂ける様な関りをさせて頂いている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	把握しており、症状の変化に注意している。薬の変更について随時、看護師から申し送りがあり、利用者様に変化が見られれば、看護師に申し送っている。ご家族の心配事なども伺い主治医に伝えている。かかりつけ薬剤師との連携も行き、体調変化に対応。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が出来る事、好きな事をみつけ、散歩、レクリエーション、月の行事、家事作業など楽しみの支援を行っている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人やご家族が希望される医療機関への通院、おやつや買い物、散歩、花見など、コロナ禍であっても、外へ出かける機会を増やす努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持ちたいと希望される方があり、安心感を感じて過ごして頂く為に、そういった場合はご家族と金額を相談し、もって頂く様支援を行っている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、利用者様やご家族の希望があれば、ホームの電話を利用して頂いている。手紙などもお渡ししている。遠方のご家族には、携帯電話のライン機能を利用し、画像の送信やビデオ通話にてコミュニケーションを取って頂いている方もある。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内を清潔に保ち、不快感を感じ無い様に配慮している。玄関やフロアー、洗面所に季節の花を飾るなどし、ゆったりと落ち着いた雰囲気でも過ごして頂ける様、工夫している。作品作りなども利用者様に楽しみながら行って頂けるよう工夫している。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキ、玄関に配置された椅子に座って頂ける様、個別に過ごして頂く場所があり、利用者様自身の能力で上手に使い分けてみえる。利用者様によっては事務所に話しに来られる方もある。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の作品や写真で室内を飾ったり、清潔感や安全面にも配慮している。ご自宅から思い出の物を持ち込んで頂いている方もある。TV番組表を掲示し、楽しみにされている事への支援も行っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手すりの設置もされている。洗濯物を干して頂く場合などは、車いすを利用されている方でも、干すことが出来る様な高さ調整を行うなど工夫している。		